

## 事業提案企画書

(記載が複数ページにまたがっても差し支えありませんので、できるだけわかりやすく具体的に記述してください。ただし、この企画書はA4サイズで4ページ以内で記述願います。)

提案団体名	西新チルドレンズミュージアム実行委員会
提案事業の名称	チルドレンズミュージアム
提案事業の目的	子どもの健全な育成に資するために、暮らしのもっとも身近な地域社会のなかで、行政や大学、事業所や地域住民など、子どもを取り巻く様々な立場の人々の連携によって、子どもたちが五感を通じたものづくりの楽しさや、科学や自然現象の不思議さを参加体験し、発見する機会を目的に、遊びと学びの場-チルドレンズミュージアムを開催します。
課題の緊急性・重要性(市民ニーズを含む)	<p><b>1.解決する課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■今、子どもを取り巻く環境が目まぐるしく変化している。事件や事故…、世代間を超えた子どもたちが、子ども達だけで安全に、安心して遊び、学べる空間が地域には少なすぎるという現状がある。(その結果、自宅でネットサーフィンや、TVゲームに偏ってしまう)</li> <li>■五感で体験する機会や、直接道具に触れ、自分の感覚や創造力で何かをつくるという機会も非常に少ないため、こどもの豊かな感性を育むことが困難な状況である。</li> </ul> <p><b>2.市民ニーズ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■『子どもを安心して遊ばせる場所が少なすぎるので、こういった場所は、親にとっても安心』。</li> <li>■『他では体験できないような遊びが身近にあるというのはすごくいい』。</li> <li>■『大きな子も、小さい子も一緒に遊べる場所があまりにも少ないので、定期的に開催してほしい』等(チルドレンズミュージアム アンケートから抜粋)</li> </ul> <p><b>3.その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■現在、子どもの安全と、遊びや学びが、複雑にねじれてきている。思いっきり遊ばせたいけど、安全な場所が…という切実な願いが地域には根強い。本来、遊び、学ぶ事が重要な時期の子どもたちにとって、深刻なストレスになっているように現場では肌で感じる。</li> <li>■遊びを通して学ぶ体験や、自然に触れる機会の減少…こども時代の衰退化</li> </ul>
問題解決の手法・形態	<p><b>1.課題解決の方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■地域と当実行委員会が連携し、科学実験や、造形遊び等、日常ではなかなか体験する機会のないプログラムを持ち寄り、参加体験型ワークショップを開催する。こういった体験を通して、子どもたちが安心して遊びながら学べる空間をつくる。</li> </ul> <p><b>2.問題解決の先駆性・先進性・アイデア・工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■規模や場所…小学校の体育館規模での活動</li> <li>■プログラムの充実…科学実験や造形、五感を通じた遊びなど。(4ゾーン/平均:14プログラム)</li> <li>■スタッフの充実…幼児教育を学ぶ学生スタッフの新たな実習機会、コミュニケーションスキルの向上</li> </ul> <p><b>3.その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■将来、教育の現場を目指し、幼児教育を学ぶ学生スタッフに、チルドレンズミュージアムのプログラムを企画・運営する機会をつくる(2~3プログラム)これにより、新たな学習機会の提供や、子どもの反応をダイレクトに感じることができ、通常の実習では、体験する事のできない達成感や充実感を得ることができる。</li> <li>■ビジュアルイメージの統一…チラシや会場サイン等に一貫性を持たせ、見る人に分かりやすい仕掛け</li> </ul>
市の役割・責任分担	<p><b>1.提案団体が果たそうとする役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■プログラムの企画・提案</li> <li>■本番の実施運営一式</li> <li>■作業準備及びサポートスタッフの調整</li> <li>■事業検証の協力(アンケートの集約等)</li> <li>■安全確保、怪我や事故等の保険に関する連携と調査</li> </ul> <p><b>2.福岡市に期待する役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■プログラムの企画提案のサポート</li> <li>■活動する地域団体や学校・施設の調整(当該事業は、学校・地域との連携は必要不可欠)</li> <li>■広報/PR</li> <li>■『放課後等の遊び場づくりモデル事業』と『チルドレンズミュージアム』の連携</li> <li>■上記事業をモデル事業の一環として実施し、成果・課題の検証</li> <li>■安全確保、怪我や事故等の保険に関する連携と調査</li> </ul> <p><b>3.福岡市の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■福岡市早良区役所 地域振興課:やる気応援事業 採択団体(18年度/19年度/20年度)</li> <li>■福岡市子ども未来局子ども企画課:「い〜な」ふくおか・こども週間 賛同団体</li> </ul>

<p><b>共働の必要性</b> (共働事業の効果・利点を含む)</p>	<p><b>1.共働の必要性</b></p> <p>私たちは3年間の地域活動において、当該事業の必要性(参加者の反応やニーズ)を得る事ができたと感じている。しかし今後、当該事業が地域により浸透するには、当実行委員会だけでは限界がある。(知名度や情報不足、時間)これ迄以上に、当該事業を掘り下げていくには、やはりこういった活動を福岡市として必要なものと認識してもらい、市と地域と団体(企業や大学)が共働していかなければ、抜本的な解決にはならない。</p> <p><b>2.共働することによる相乗効果</b></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">&lt;市民のメリット&gt;</td> <td style="text-align: center;">&lt;市のメリット&gt;</td> <td style="text-align: center;">&lt;団体のメリット&gt;</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■安心感・信頼感</li> <li>■情報が広範囲に伝わる</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■市民の反応/ニーズが適格に伝わる</li> <li>■モデルケース</li> <li>■市民との連携強化につながる</li> <li>■放課後の遊び場づくり事業のPR及び検証</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■安心感・信頼感</li> <li>■地域や学校、施設との調整が円滑</li> <li>■情報提供により、この事業活動が必要となる</li> <li>■地域での開催が可能になる</li> </ul> </td> </tr> </table>	<市民のメリット>	<市のメリット>	<団体のメリット>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安心感・信頼感</li> <li>■情報が広範囲に伝わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市民の反応/ニーズが適格に伝わる</li> <li>■モデルケース</li> <li>■市民との連携強化につながる</li> <li>■放課後の遊び場づくり事業のPR及び検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安心感・信頼感</li> <li>■地域や学校、施設との調整が円滑</li> <li>■情報提供により、この事業活動が必要となる</li> <li>■地域での開催が可能になる</li> </ul>														
<市民のメリット>	<市のメリット>	<団体のメリット>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■安心感・信頼感</li> <li>■情報が広範囲に伝わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市民の反応/ニーズが適格に伝わる</li> <li>■モデルケース</li> <li>■市民との連携強化につながる</li> <li>■放課後の遊び場づくり事業のPR及び検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安心感・信頼感</li> <li>■地域や学校、施設との調整が円滑</li> <li>■情報提供により、この事業活動が必要となる</li> <li>■地域での開催が可能になる</li> </ul>																			
<p><b>事業の内容</b></p>	<p>■『放課後等の遊び場づくりモデル事業』と『チルドレンズミュージアム』が連携し、巡回型ワークショップ『ミニチルドレンズミュージアム』(仮称)の開催</p> <p>・目標 (1)『放課後等の遊び場づくりモデル事業』の意義や重要性をCMと共働しPRする。 (2)放課後の時間や空間を利用し、遊びと学びの機会(きっかけ)を増やす。 (3)継続可能なプログラムを地域へ提案、実施し、検証する。</p> <p>・成果:当該事業の意義や重要性をPRする事ができる。また、関係団体や地域サポーターとともに実施する事によりノウハウを今後の地域活動に役立ててもらうことができる。</p> <p>・内容:勾玉づくりやアニメーションの体験等、チルドレンズミュージアムのプログラムを分割し、各校で開催</p> <p>・実施:21年6~9月計7回を予定</p> <p>・会場:『放課後等の遊び場づくり』事業のモデル事業実施小学校(7校)での開催</p> <p>・参加人数:1回につき40~60名程度</p> <p>・予算額:@76,000×7回 計532,000(予定)</p> <p>■百道チルドレンズミュージアム</p> <p>・目標:上記事業の集大成として、実施した各モデル校と連携を図りながら、子どもたちの遊びと学びの居場所づくりを目指す</p> <p>・成果:(1)学校や家庭では経験できない様々な体験を通し、感性を育み、モノづくりの大切さや、科学の楽しさを学ぶ。 (2)児童教育を学び、将来、教育の現場を目指す学生スタッフにとっても、貴重な実習機会になる。 (子どもたちの表情、感性、遊びと学びのバランスの難しさ、大切さ) (3)1つの空間で多様な世代間の交流が生まれる (4)モデル事業の周知・PRと、保護者、地域、NPO、大学等の参画を促進する契機となる</p> <p>・内容:大きく分けて、4テーマで構成:平均合計14プログラムで構成 (科学実験ワークショップ/造形ワークショップ/五感を使ったワークショップ/からだを使うワークショップ)</p> <p>・実施日程:21年10月中旬(予定)/参加予定数:800名(予定)/実施場所:福岡市立百道小学校(予定)</p> <p>・予算額:〒701,100(予定)</p>																				
<p><b>事業の実施体制</b></p>	<p>1.総括責任者 西新チルドレンズミュージアム実行委員会 実行委員長:大濱順彦(西南学院大学 人間科学部児童教育学科教授)</p> <p>2.個別事業責任者 百道チルドレンズミュージアム事業責任者:高木正太郎(専従者2名) 巡回型ワークショップ ミニチルドレンズミュージアム(仮称)の開催:高木正太郎(専従者2名)</p> <p>3.事業実施にあたっての専門性やノウハウ ・実行委員長:大濱順彦(西南学院大学 人間科学部児童教育学科教授) ・副委員長:古田雅憲(西南学院大学 人間科学部児童教育学科教授) ・会計:岩下治巳(能許楽居窯作陶会 事務局長) ・事務局長:高木正太郎(VOW OFFICE 企画室主任 こどもイベントの企画・運営・実施)</p>																				
<p><b>事業スケジュール</b></p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1四半期 4~6月</th> <th>第2四半期 7~9月</th> <th>第3四半期 10~12月</th> <th>第4四半期 1~3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実行委員会</td> <td>開催</td> <td>開催</td> <td>開催</td> <td>開催</td> </tr> <tr> <td>CM事業</td> <td>準備/調整</td> <td>準備/ロケハン/広報</td> <td>実施本番</td> <td>報告書作成</td> </tr> <tr> <td>ミニCM事業</td> <td>準備/説明会/ロケハン 実施本番(6月)</td> <td>実施本番</td> <td>検証</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">■CM・チルドレンズミュージアム</p>		第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月	実行委員会	開催	開催	開催	開催	CM事業	準備/調整	準備/ロケハン/広報	実施本番	報告書作成	ミニCM事業	準備/説明会/ロケハン 実施本番(6月)	実施本番	検証	
	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	第3四半期 10~12月	第4四半期 1~3月																	
実行委員会	開催	開催	開催	開催																	
CM事業	準備/調整	準備/ロケハン/広報	実施本番	報告書作成																	
ミニCM事業	準備/説明会/ロケハン 実施本番(6月)	実施本番	検証																		

(第2号様式)

<b>地域や他団体との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「科学の公園」をつくる会とプログラムによる連携をし、科学の不思議や面白さを、実験を通して体験できるコーナーを設置。</li><li>・地域のおやじの会や、青少年育成協議会、公民館等と、実施運営やプログラム参加等の連携を図っていく。</li><li>・環境保護活動や、社会貢献活動をしている企業とも、連携を図っていきたい。</li></ul>						
<b>事業の展望及び今後の活動展開</b>	<table border="1"><tr><td data-bbox="504 568 571 622">21年度</td><td data-bbox="577 568 1391 622">CMのプログラムを分割し、出前ワークショップを展開し、遊びと学びの場を提供 地域活動の一環として、地域にCMが残っていくようなフォローアップ……ノウハウの提供/協力</td></tr><tr><td colspan="2" data-bbox="504 631 1391 658" style="text-align: center;">▼</td></tr><tr><td data-bbox="504 667 571 721">22年度</td><td data-bbox="577 667 1391 721">小学生、中学生のボランティアスタッフ(地域サポーター)が積極的に参加できるシステムを考案</td></tr></table>	21年度	CMのプログラムを分割し、出前ワークショップを展開し、遊びと学びの場を提供 地域活動の一環として、地域にCMが残っていくようなフォローアップ……ノウハウの提供/協力	▼		22年度	小学生、中学生のボランティアスタッフ(地域サポーター)が積極的に参加できるシステムを考案
21年度	CMのプログラムを分割し、出前ワークショップを展開し、遊びと学びの場を提供 地域活動の一環として、地域にCMが残っていくようなフォローアップ……ノウハウの提供/協力						
▼							
22年度	小学生、中学生のボランティアスタッフ(地域サポーター)が積極的に参加できるシステムを考案						